

# 太子町交流拠点施設基本構想

<概要版>

令和4年3月

太子町



## 大子町 賑わいのあるまちづくりを目指して

大子町では、人口減少・少子高齢化を踏まえた常陸大子駅周辺の中心市街地活性化や、新庁舎移転に伴う拠点間の連携強化、また、町内外のネットワーク強化といった面から、まちなかに賑わいをつくることが求められています。

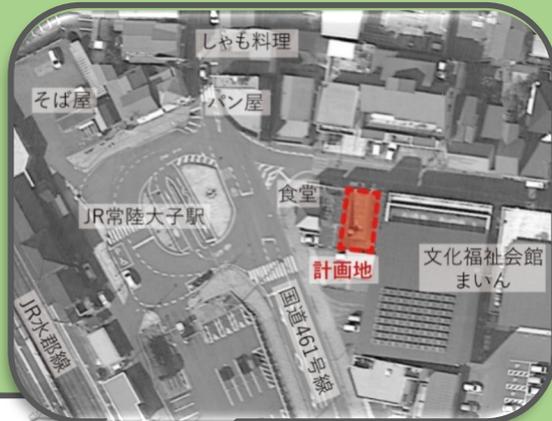
まちなかの町民の生活も守りながらも、様々な人々が居場所をつくり、活動していけるような、大子のまちなかの魅力を高める新しい交流拠点施設を創る。このことが豊かな自然環境や地域資源、町民のあたたかさといった町の財産や文化を未来へつなぐために大切なことだと考えます。

そこで、大子町交流拠点施設を整備するにあたり、求められる機能や施設のイメージについて、町としての方向性を基本構想として策定いたしました。

### 計画地について

町内外の交通の結節点ともなる常陸大子駅前のゲームセンター跡地を活用します。

利用者のニーズに基づいた整備により、様々な人々にとって魅力的な施設を目指します。



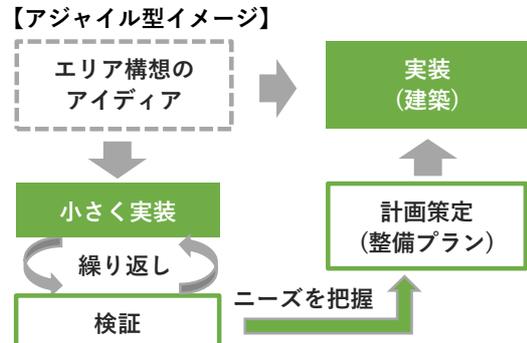
計画地のマップ



中心市街地のマップ

## 大子町 利用者のニーズに基づく整備検討の進め方

魅力的な施設とするため、ワークショップの開催や必要に応じて、エリア構想のアイデアについて、社会実験と効果検証を繰り返す、アジャイル型の整備も検討し、利用者のニーズを把握します。また、交流拠点施設を含めた、駅前中心市街地を一体的に検討していくことでまちなか全体における賑わいの創出を考えました。



3つのStepで整備を進めます。  
本基本構想では、Step 1により、町としての方向性を検討しました。今後はStep 2、3を進める予定です。

「なぜ」を基に、「なにを」整備するか考えることで、町としての方向性を固めました。市内検討委員会を発足し、事前アンケート調査と、市内ワークショップにより町としての意見収集や取り纏めを行いました。

### 整備検討のStep

#### Step 1 市内検討委員会で検討・策定

「なぜ」の議論を通してこの場所をどうしたいか町(行政)としての方向性を固める

#### ニーズ検証

#### Step 2 交流拠点施設を設計する

利用者のニーズ把握、ニーズに基づく導入機能の検討、プラン策定・設計

#### ニーズへの対応

#### Step 3 交流拠点施設を建設する

利用者のニーズに基づく交流拠点施設の建設

### Step 1 の流れ

#### 事前アンケート 「交流拠点施設に係る職員アンケート」

「大子のまちなか全体に対する行政職員としての考え方を把握する」

#### 整備目的の共有

#### 第1回市内ワークショップ 「第1回交流拠点施設基本構想検討委員会」

「なぜ」交流拠点施設を整備するのか理解を深める

#### まちなかの現状把握とターゲットの見定め

#### 第2回市内ワークショップ 「第2回交流拠点施設基本構想検討委員会」

「なぜ」中心市街地に賑わいが必要なのか把握する

#### 整備内容に対する町としての方向性

#### 第3回市内ワークショップ 「第3回交流拠点施設基本構想検討委員会」

「将来像実現のために「なにを」整備するか町としての方向性を固める」

## 大子町 交流拠点施設整備における大子町としての方向性

事前アンケートと3回に渡る庁内ワークショップにより、下記のような結果を取り纏め、交流拠点施設整備における大子町としての方向性を固めました。交流拠点施設を含めた、**駅前中心市街地を一体的に検討**する上で、“場”の設置に伴い、“**アクティビティ**”を誘発する仕掛けづくりが、**まちなかの魅力向上**に必要であると考えられていました。それを踏まえ、取り組むべき施策の例として4つほどイメージが挙げられました。今後は、町としての方向性を踏まえ、町民などの意見も取り入れながら、**ニーズに基づいた整備**を進めます。

### ●整備事業の進め方

#### 【ワークショップ等を通じた利用者のニーズに基づく整備方策】

エリア構想のアイディアについて、

- ・ 必要に応じた社会実験と効果検証を繰り返す アジャイル型の整備
  - ・ 社会情勢やニーズに応じた利用ができる フレキシブルな空間の整備
- 以上の両面から可能性を検討し、整備を遂行

### ●整備内容検討の目標

交流拠点施設を含めた駅前中心市街地を一体的に検討することで、町のポテンシャル開発も考慮した、まちなか全体の魅力向上に寄与する整備

### ●求められる機能と施設のイメージ

#### 【駅前中心市街地における施策】

##### “場”と“アクティビティ”

#### 【取り組むべき施策の例】

- ・ みんなが過ごす“まち”のリビング (例) (子供が遊べて親が見守れるような屋根のある場)
- ・ 新たに出会う“まち”のレガシースポット (情報収集や滞在ができる場)
- ・ “まち”なかのサードプレイス (勉強や会話・イートインができるフリースペース)
- ・ “まち”なかのイノベティブスペース (デジタルコンテンツもある集中できる場)

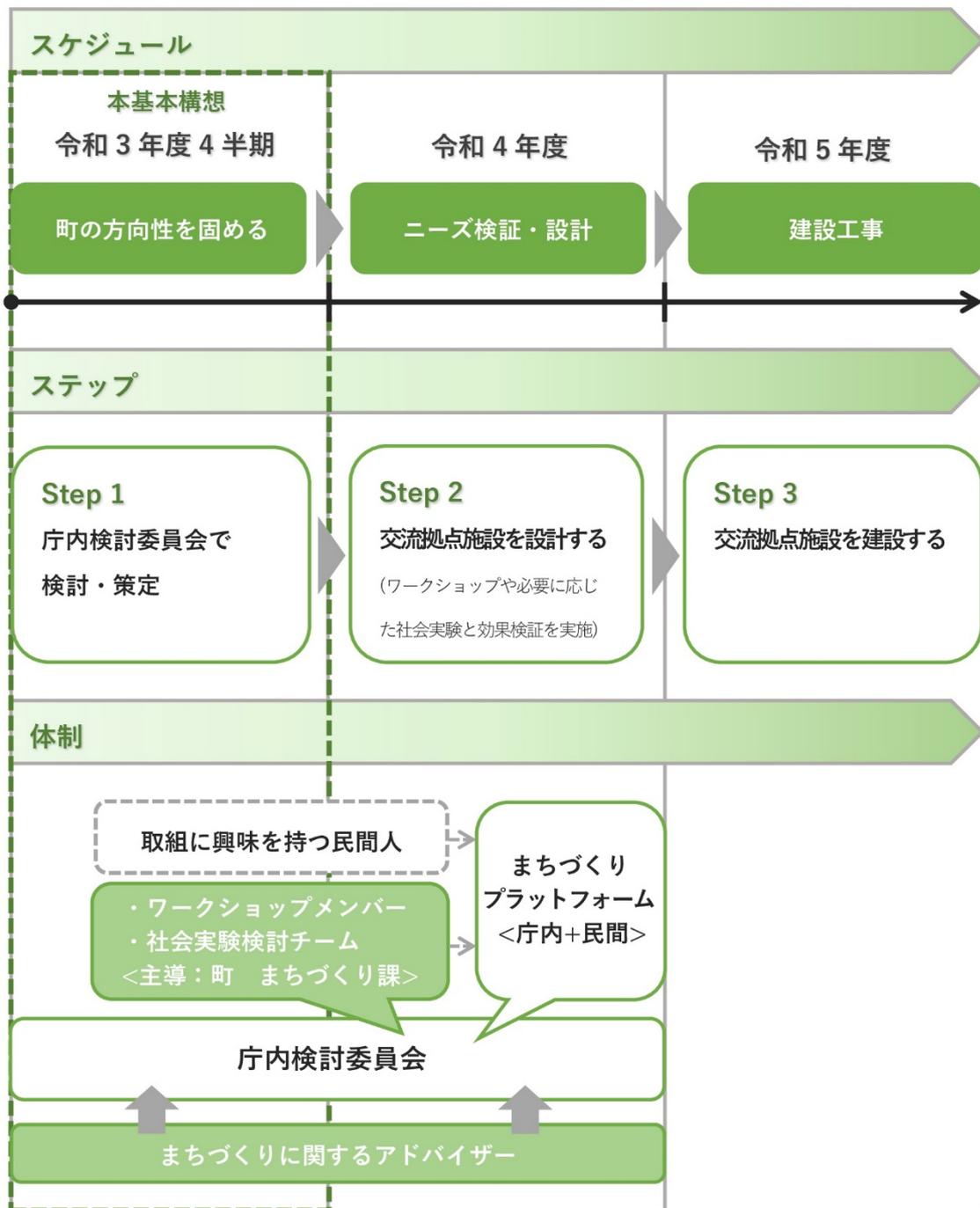
など

など

## 大子町 今後の進め方

今後の進め方として、スケジュール・体制・ステップについて下記の予定で進めます。  
令和4年度にニーズ検証や設計を行い、令和5年度から建設し、計画地を空地とする期間を縮め、駅前中心市街地に賑わいを創り、魅力向上に繋げることを考えます。

また、大子町を主体とし、より多くの人々を巻き込み、連携しつつ、事業に取り組むことで、みんなに親しまれ、大切に育まれる施設になると考えます。





# 大子町交流拠点施設基本構想

作成日 令和4年3月

発行 大子町